



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北海道いすゞ自動車株式会社新社屋(事務所・工場棟)	階数	4
建設地	白石区本通20丁目北562-10他	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	125 人
建物用途	事務所・工場	年間使用時間	2,100 時間/年(想定値)
竣工年	2020年12月	評価の段階	
敷地面積	16,454 m ²	評価の実施日	2020年2月25日
建築面積	7,860 m ²	作成者	
延床面積	10,782 m ²	確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆ **B-**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記+②以外のオンサイト手法	87%
④上記+オフサイト手法	87%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価
建物全体の[BEI][BEIm]= **0.82**

2-5 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア= 2.5**

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア= 3.0**

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項	
<p>総合 自動車修理工場及びこれを運営する事務所として、利用者への充実したサービス提供を効率的に行う施設とする。</p>	<p>A 省エネルギー 外壁に断熱性能の高い材料(断熱パネル)を採用し冷暖房負荷を低減し、又、照明器具のLED化等により消費エネルギーを低減する計画とした。</p>
<p>B 省資源等 建物基礎下に再生クラッシュランを使用する等、建築材料に再生材を使用する計画とした。</p>	<p>C 緑化 「札幌市緑の保全と創出に関する条例」に基づき、地域に相応しい緑地を確保する計画とした。</p>
	<p>D 雪処理 ロードヒーティングや融雪槽を設け、敷地内で雪処理を完結できる計画とした。</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用					
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)
 (仮称)北海道いすゞ自動車株式会社新社屋(事務所・工場棟)

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質							2.5
Q1 室内環境				0.33		-	2.9
1 音環境			2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音			2.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能			3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能			1.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	
1.3 吸音			3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境			2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御			3.0	0.50	-	-	
1 室温			3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御			1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式			3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境			2.7	0.25	-	-	2.7
3.1 昼光利用			1.8	0.30	-	-	
1 昼光率			1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策			3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	省エネ		3.0	1.00	-	-	
2 映り込み対策			-	-	-	-	
3.3 照度		照度750lx以上。	4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御			3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境			3.6	0.25	-	-	3.6
4.1 発生源対策			5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		告示対象外建材及びF☆☆☆☆☆建材を全面使用。その他、低VOC建材の使用を指定。	5.0	1.00	-	-	
4.2 換気			3.0	0.30	-	-	
1 換気量			3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能			3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理			1.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視			1.0	1.00	-	-	
2 喫煙の制御			-	-	-	-	

Q2 サービス性能			0.30	-	-	3.0	
1 機能性			3.0	0.40	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ			2.6	0.40	-	-	
1	広さ・収納性		3.0	0.33	-	-	
2	高度情報通信設備対応		2.0	0.33	-	-	
3	バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性			2.6	0.30	-	-	
1	広さ感・景観 (天井高)	天井高2.7m。	4.0	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3	内装計画		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理			4.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計	ビニル床シート等、防汚性・清掃性に配慮した仕上材を採用。外部金物はアルミ材・メッキ材等防錆性のある材料を使用。	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保	評価する取り組み8項目。	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			2.8	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 主な使用材料 床:ビニル床シート、壁:ビニルクロス、天井:ボード	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			3.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	系統の区分及びGHP・EHPの併用を行う。	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.85m	4.0	1.00	-	-	
2	空間の形状・自由さ		-	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		緑化	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ	BPIm:0.80	5.0	0.07	-	5.0
2 自然エネルギー利用		省エネ	工場にトップライトを採用。	4.0	0.12	-	4.0
3 設備システムの高効率化		省エネ	[BEI][BEIm] = 0.82 -	2.9	0.58	-	2.9
4 効率的運用			2.0	0.23	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ	1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	3.5
1.1 節水			節水型便器を採用。	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.3	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		洗車用水に再利用水を使用。	4.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減		省資源		2.0	0.14	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		省資源		-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		省資源		3.0	0.29	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		省資源	陶磁器質タイル、ビニル系床材	4.0	0.29	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		省資源		-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		省資源	OAフロアを採用。	4.0	0.29	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.20	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	省資源	粉末消火設備を採用。	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒	省資源		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		省資源	リサイクル建材の活用等。	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				1.9	0.33	-	-	1.9
2.1 大気汚染防止		省資源		-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 悪化 雪処理		1.0	0.67	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.33	-	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	開発行為に当たり必要対策量を満たす流出抑制を行っている。	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		社員用自転車置場を整備。社員及び利用者用駐車場を建物屋上と敷地内に整備。敷地が面する各道路に車両出入口を設ける。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	建物内に種別のストックスペースを持つゴミ庫を設ける。敷地内にロードヒーティング及び融雪槽を設け、敷地内にて雪処理を完結させる。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	0.33	-	-	
2	振動			3.0	0.33	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		省エネ性・運用その他について考慮した。	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	0.7	BEEランク	B ⁻
建物名称	(仮称)北海道いすゞ自動車株式会社新社屋(事務所・工場棟)				
建物用途	事務所,工場,				
延床面積	10,781.6 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★★★	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★★	

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー (最高点 22.6 最低点 6.7)				合計		13.6点 /22.6点	
Q1 温熱環境	スコア	0.5	/0.8	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	1.4	/1.4
Q1 光・視環境	スコア	1.1	/1.8	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.9	/2.3
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	6.8	/11.6
				LR1 効率的運用	スコア	1.9	/4.7
B 省資源等 (最高点 23.8 最低点 7.4)				合計		14.0点 /23.8点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6	/1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.1	/9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.1	/2.7	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.4	/1.8
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.5	/5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	1.3	/4.2
C 緑化 (最高点 18.8 最低点 3.8)				合計		5.8点 /18.8点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.1	/5.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.7	/3.3
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	2.9	/7.3				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.1	/2.7				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計		2.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0	/2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数